



言語変化研究における 『見かけ上の変化』の功罪

— 国立国語研究所の経年調査を中心に —

朝日祥之*・松田謙次郎**・横山詔一*

*国立国語研究所 **神戸松蔭女子学院大学

はじめに

▶ 本パネルでは・・・

(1) 言語変化を捉える視点としての「見かけ上の変化」

(1-1) 「見かけ上の変化」が教えてくれるもの

⇒ 「見かけ上の変化」の功

(1-2) 「見かけ上の変化」ではわからないもの

⇒ 「見かけ上の変化」の罪

(2) これらを考える上で・・・

⇒ 国立国語研究所の経年調査

＋発表者の研究課題を事例に

国立国語研究所の経年調査

- ▶ 一般によく知られているのが・・・
 - (1) 山形県鶴岡市における共通語化調査
⇒ J.K.Chambers (2003) Sociolinguistic Theory. Oxford: Blackwell.
でも紹介される
- ▶ この他にも
 - (2) 北海道富良野市における共通語化調査
 - (3) 愛知県岡崎市における敬語調査
 - (4) 日本語非母語話者の言語生活

国立国語研究所の言語生活研究

▶ 対象となる言語事象を見つめる視点

⇒ 事象を説明するのに必要な期間を設定する

⇒ いくつかの設定が可能

(1) 短期間の期間設定(1年～5年)

・日本語非母語話者の言語生活研究(野山広)

⇒ パネル「日本語学習者の言語生活を支える

データベース構築—その有効性」(7月15日)

(2) 長期間の時間設定(20年～55年)

・共通語化調査(山形県鶴岡市・北海道富良野市)

・敬語調査(愛知県岡崎市)

本パネルの構成

1. 本パネルの概要（5分）
2. 研究発表＋質問（内容の確認）（25分）× 3件
3. 全体討論（10分）

それでは、よろしくお願いいいたします。